【原著論文】

マレー語における否定対極表現

Zoraida MUSTAFA
広島大学大学院国際協力研究科
広島県東広島市鏡山１丁目５番１号
E-mail: amira97@hiroshima-u.ac.jp

１．はじめに

否定に関する研究は言語学的観点からだけではなく，古代ギリシャ哲学者のアリストテレスの時代から哲学的に論じられている。否定を議論する際に，「対立・反対」または「矛盾」という概念が重要なになってくる。

日本語における否定に関する研究では，太田（1980），岩倉（1982）を挙げることができる。その他，佐久間（1934），湊吉（1971），水谷（1974），McGloin（1972），Kato（1985）などでは，日本語独自の否定の諸側面を挙げている研究がなされている。また否定対極表現に関する研究では，McGloin（1972），Kato（1985），山田（1997），吉村（1999）の研究が先駆的である。

一方，マレー語に関する否定研究はあまりなされていない。マレー語研究に置いては，Asmah（1980, 1992），Nik Safiah（1995），Nik Safiah, et al.（1993），Noresah（2002）などを挙げることができるが，いずれにしても文法に関するものが殆どであり，否定に関する研究は見当たらなかった。しかし，マレー語と同じオーストロネシア語族のインドネシア語では，Sudaryono（1993）(1)形態的，意味論的に否定を論じた研究が見られた。

日本語では「学生しかいない」「彼はめったに怒らない」「こんなことは二度とあるまい」などのような表現がある。一般的に，以上のような表現では，「しか，めったに，二度と」などが否定文の中で用いられて，否定を強調することができる。このように助詞や副詞が否定文の中に現れ，否定の意味を強める表現は否定対極表現と称される。山田（1997）では，否定対極表現を次のように説明している。

> 大多数の表現は肯定環境と否定環境の両方で用いられる。ところがどちらかの環境だけでしか用いられない表現があって，特に否定環境のみで使用される表現が種類も多く使用頻度も高い。これが否定対極表現（negative polarity item）と呼ばれる表現である。
>
> （山田 1997，p.3）

更に山田は，「否定対極表現には肯定文の中では用いられない特殊なものも，肯定文でも用いられて，否定の用法とは意味が異なるものもある。その区別が必要な場合には，前者は強い否定対極表現，後者は弱い対極表現と呼ぶ」と述べている（山田 1997，p.5）。また日本語では，その否定対極表現が否定文の中で否定詞の前に現れるため，最後まで文を聞かなくても，否定文であることが推測でき，前触れ機能を持っている。

一方，マレー語に関する否定研究はあまりなされていないと上述したように，否定対極表現に関する研究も皆無に近いと考えられる。本稿では，マレー語における否定対極表現の特徴を明らかにしていく。

マレー語には副詞的な機能をしている，kata tugas（以後，機能語と呼ぶ）という words category（以後，語分類と呼ぶ）があり，これが対極表現を作り，文の意味を強めることが多くある。そ

広島大学大学院国際協力研究科『国際協力研究誌』第12巻第２号，2006年，pp. 71–86

こで，本稿では，Nik Safiah（1995）の語分類を利用して，**機能語**の範疇を調べ，否定対極表現を明らかにし，さらに，山田（1997）の否定対極の分類を用いて，マレー語の文献資料から頻繁に用いられる否定対極表現が含まれる例文をマレー語の文献から収集し，検証する。

2．日本語における否定対極表現の諸説

日本では，否定文としか用いられない副詞が多い。その多くは，陳述副詞と称され，前に出現すると，述部は必ず否定形式で呼応しなければならない。工藤ら（2000）は，これらの陳述副詞を細かく分類し，特徴付けている。それは，ⅰ）否定文を完全否定にする陳述副詞，ⅱ）否定文を不完全否定まだは部分否定にする陳述副詞である。工藤ら（2000）では，それぞれの陳述副詞を次のように挙げている。

①けっして，かならずしも，あながち，いちがいに，まんざら，まさか，よもや，とうてい，ぜんぜん，すこしも，ちっとも，これっぽっちも，いささかも，みじんも，まるっきり，ゆめにも，もうとう，たいして，さして，さほど，いまひとつ，ろくに，めったに，ついぞ，ひさしく，どうにも，いっこうに；

②とても，なかなか／まるで／あまり／それほど／そんなに，そう／べつに／さっぱり）とその他（1. 半年も，五メートルと，二度と／つゆほども，ちりほども／一つも，一人も，一度も（一度だって），一言も，ひとかけらも，一銭も，一睡も，一刻も／指一本，雲一つ，身じろぎ一つ，口答え一つ／誰一人，何一つ／誰も，なにも，なんら；2.しか）

更に，工藤は，陳述副詞または「半年も」「二度と」「一つ」のような否定形式と呼応する特殊表現を取り上げて，それらを認可する環境に着目し，探究している。

一方，Kato（1985）は，日本語の否定対極表現を：indeterminate＋MO（不定＋も），numeral 1＋counter＋MO（数字１＋数量詞＋も），adverbials（副詞），quantifier-like（or focus）particles（しかのような取立て助詞）が否定文のみに使用されるため否定対極表現と考えることができると述べている。またこの他，肯定の対立を持たない否定形式の表現も NPI として扱うことができる。例えば，「さしつかえない」，「やむをえない」，「～にすぎない」，「仕方がない」などのような表現である。Kato（1985）は，このような肯定対立を持たない表現は述部否定として用いられる場合，NPI を認可する場合と，認可しない場合がある。例えば，(1)と(2)の例文では，NPI「しか」との共起が許されないが，(3)と(4)では「しか」が用いられる。

(1) ＊太郎が来るの**しか**やむをえない。
NPI

(2) ＊この本**しか**持って行ってもさしつかえない。 NPI

(3) 彼が書いた本は三冊に**しか**すぎない。
NPI

(4) 先生と**しか**話してはいけない。
NPI

Kato によれば，(1)と(2)では，述部の結びつきが強いため，否定詞は他の文の要素に影響を与えることができないが，(3)と(4)では述部の結びつきがあまり強くないため，否定詞は文の他の要素に影響を与えることができる。また，否定文でよく用いられる NPI が，否定の意味が含まれる修辞的な中に用いられることがある。(5)と(6)はその例である。

(5) 学校になんか。一週間に一度**しか**いくもんか。 NPI

(6) 野良猫になんか，魚の骨**しか**やるもんか。
NPI

(7) 社会一般の体制を見るがよい，現代の日本において**何一つ**文学に幸いするものがあろう。

(8) …その墓地に…葬られる身になろうとは**夢にも**予期したであろうか。[2]

上記の Kato（1985）で挙げている例文を見ると，NPI は必ずしも否定形式と呼応しなければならないとは限らない。つまり，肯定文の中でも，

否定の意味が含まれる場合，NPI が認可されるということである。

Kato（1985）の他，McGloin（1972）でも，日本語の NPI について論じられている。McGloin は，日本語の NPI として Kato（1985）と同じく，ⅰ）indeterminate＋MO（不定＋「も」），ⅱ）negative adverbs（否定形式と呼応する副詞），degree adverbs（程度副詞），ⅲ）idiomatic phrases（慣用句），ⅳ）numbers 1 and 2＋counter（数字 1 と 2 ＋数量詞）などがあると述べている。ここで慣用句としているものは，Kato（1985）の肯定の対立を持たない否定形式の表現のことと同じである。

3．マレー語の否定対極（NP）

Nik Safiah, et al.（1993）と Nik Safiah（1995）の品詞分類によれば，マレー語では，副詞という文法範疇はないが，副詞と同様に様々な役割を担う機能語はある。Kato（1985），McGloin（1972），山田（1997）の否定対極の分類を見ると，マレー語では対極性を示す語は，文法範疇の機能語に集中していると考えられる。そこで次節より，マレー語の NPI を調べるために，否定文と起こりえる機能語をいくつか挙げて，例文を検証する。

3-1　否定対極要素

山田（1997）は，意味論的性質を中心に統語，語用論的特徴を参考にし，諸学説を参照しながら否定対極表現を分類すると，次のようにあると述べている。

① 弱数量叙述
② 最小限表現
③ 強調表現
④ 程度修正
⑤ 文法的最上級
⑥ 語用論的最上級
⑦ 限界指示
⑧ 部分除外
⑨ その他

マレー語の否定対極を調べるに当たって上記の分類を参考にする。文の中で様々な形式で用いられる機能語は，先行または後続する部分を強調する機能を持っている。機能語は大きく（ⅰ）kata penyambung ayat（以後，接続詞とする），（ⅱ）kata praklausa（以後，前節詞とする），（ⅲ）kata prafrasa（以後，前句詞とする），（ⅳ）kata pascakata（ある語に後続する語のことであり，その語を名詞に変化させ，強調する機能を持つ語のことである）と 4 つのグループに分類することができる（Nik Safiah 1995）。グループ（ⅰ）の接続詞以外は，いずれも，後続する部分の意味を強調する機能を持っている。また，グループ（ⅳ）の kata pascakata は，更に kata penekan（表現を強固にする語，以後**強固詞**と称する）と kata pembenda（語を名詞に変化させる語，以後**名詞変換詞**）に分けられている。例えば，

(9) Lapisan ozon *sesungguhnya* semakin menipis.
　層　オゾン　実に　だんだん 薄まる
〈オゾン層は実にだんだん薄まっていく。〉
{lapisan ozon}　{semakin menipis}
NP「オゾン層」　VP「薄まっていく」

sesungguhnya は lapisan ozon「オゾン層」と semakin menipis「だんだん薄まる」の名詞句 {NP} と動詞句 {VP} の間に立ち述部を強調している。文の中に，sesungguhnya がなくても，“lapisan ozon semakin menipis”「オゾン層だんだん薄まる」という平叙文 {NP} {VP} が成り立する。また，kata pembenda（名詞変換詞）の場合は，名詞以外の品詞を名詞に変化させる機能を持っているが，否定対極性を示す表現には思われない。

3-2　否定と呼応する機能語

Nik Safiah（1995）と Nik Safiah, et al.（1993）では，前節詞と前句詞のカテゴリーが更に細かく分類されている。前節詞は exclamation（感嘆詞），interrogative（疑問詞），imperative（命令詞），と discourse marker（談話指標）に分類されている。また，前句詞は，auxiliary（補助動詞），intensifier（強意詞），emphatic（強調詞），negative（否定詞），preposition（前置詞），direction（方向詞），numeral（数量詞）に分類されている。本稿を進めるためには，例文を通して以上の類別から対極性のある語を取り上げることにし，マレー語にお

ける NPI を検証する。まずは，機能語の中にある強調語の langsung と hanya を見てみよう。

3-2-1 強調語 langsung

まず，第一に emphatic word（強調詞）の langsung は，述部を強調するために用いられる表現である。langsung は一般的に否定文の中で用いられる。以下の⑾〜⒀を参照されたい。

⑾ a．Dia *langsung* **tidak** tahu tentang selok belok perniagaan.
彼 全く NEG 知るについて テクニック ビジネス

〈彼はビジネスのテクニックを全く知らなかった〉

b．Dia **tidak** tahu *langsung* tentang selok belok perniagaan.
彼 NEG 知る 全く について テクニック ビジネス

c．Dia **tidak** tahu tentang selok belok perniagaan *langsung*.
彼 NEG 知るについて テクニック ビジネス 全く

d．*Langsung* dia **tidak** tahu tentang selok belok perniagaan.
全く 彼 NEG 知るについて テクニック ビジネス

＊e．Dia tahu *langsung* tentang selok belok perniagaan.
彼 知る 全く について テクニック ビジネス

⑿ a．Mereka *langsung* **tidak** hiraukan nasihat dan amaran.
彼ら 全く NEG 気にかける 助言と 警告

〈彼らは助言や警告を全く聞く気にかけない〉

b．Mereka **tidak** *langsung* hiraukan nasihat dan amaran.
彼ら NEG 全く 気にかける 助言と 警告

c．Mereka **tidak** hiraukan nasihat dan amaran *langsung*.
彼ら NEG 気にかける 助言 と 警告 全く

d．*Langsung* mereka **tidak** hiraukan nasihat dan amaran.
全く 彼ら NEG 気にかける 助言と 警告

＊e．Mereka *langsung* hiraukan nasihat dan amaran.
彼ら 全く 気にかける 助言 と 警告

⒀ a．Budak kecil itu *langsung* **tidak** mahu makan.
子供 小さいその 全く NEG 欲しい 食べる

〈その小さな子は全く食べたがらない〉

b．Budak kecil itu **tidak** *langsung* mahu makan.
子供 小さいその NEG 全く 欲しい 食べる

c．Budak kecil itu **tidak** mahu makan *langsung*.
子供 小さいその NEG 欲しい 食べる 全く

d．*Langsung* budak kecil itu **tidak** mahu makan.
全く 子供 小さいその NEG 欲しい 食べる

＊e．Budak kecil itu langsung mahu makan.
子供 小さい その 全く 欲しい 食べる

⑾〜⒀の a は，langsung を除いて，以下の⑾'〜⒀' のように，それぞれ {VP} {NP}，{N} {VP}，{NP} {VP} の構文を取っている。⑾〜⒀の文は，langsung を省略すると，否定を表す平叙文となる。

⑾' {dia tidak tahu} {tentang selok belok perniagaan}
NEG VP NP

⑿' {mereka} {tidak hiraukan nasihat dan amaran}
N NEG VP

⒀' {budak kecil itu} {tidak mahu makan}
NP NEG VP

⑿ a と⒀ a の場合は，langsung が“tidak hiraukan nasihat dan amaran”「助言や警告を聞く気にかけない」と“tidak mahu makan”「食べたくない」の述部の否定を完全なものするが，⑾ b の場合は，langsung が“tentang selok belok perniagaan”「ビジネスのテクニックについて」の前にあるが，述部の否定を強調している。

また，以上の langsung の出現位置を見ると，⑾の {NegVP} {NP} 構文の場合は，langsung は

句と句の間 {NegVP} langsung {NP}，句の中 {NegVP-langsung}（VP に後続するのでなく，VP 内に含まれている），{NP}，句の後 {NegVP} {NP} -langsung に出現することが許される。⑾の a，b，c の意味は同義である。

⑿の {N} {NegVP} 構文では，langsung は，句の間 {N} langsung {NegVP}，句の中 {N} {NegVP-langsung}，句の後 {N} {NegVP} langsung, 句の前 langsung {N} {NegVP} の出現が許される。但し，句の前に現れる構文は，口語的に用いられる場合が殆どである。

⒀の {NP} {NegVP} 構文では，langsung は句の間 {NP} langsung {VP}，句の後 {NP} {NegVP} langsung, 句の前 langsung {NP} {NegVP} の位置が認められる。しかし，句の中 {NP} {NegVP-langsung} での出現は認められない。

以上の langsung の出現する位置を見ると，本来 Nik Safiah（1995）が提唱した前句詞の出現条件[3]を破ることになる。従って，langsung はある条件の下で語順の位置を変えることができる。

また，⑾〜⒀の e のような文は，筆者の検証の限りにおいては, 非文法的で文として成立しない。すなわち，強調語 langsung は，肯定環境では用いられないため，一つのマレー語の NPI として扱うことができる。

3-2-2　強調語 hanya

hanya は langsung と同類の強調語であるが，langsung と違って明示的な否定形式が現れない。つまり，hanya が出現する文には必ずしも否定詞 tidak が含まれるとは限らない。例えば，以下の例文のように肯定形式を用いながら，語用論的・談話的な観点では否定の意味を表す文となっている。

⒁ a．*Hanya* Ali seorang yang telah sampai di pejabat.
だけ アリ 一人 （過去） 着く 事務室
〈会社に着いたのはアリ一人だけだ〉
b．Ali seorang yang telah sampai di pejabat.〈アリ一人会社に着いた〉

⒂ a．Laila *hanya* cinta Majnun.
ライラ だけ 愛するマジュヌン
〈ライラはマジュヌンだけ愛する〉
b．Laila cinta Majnun.〈ライラはマジュヌンを愛している〉

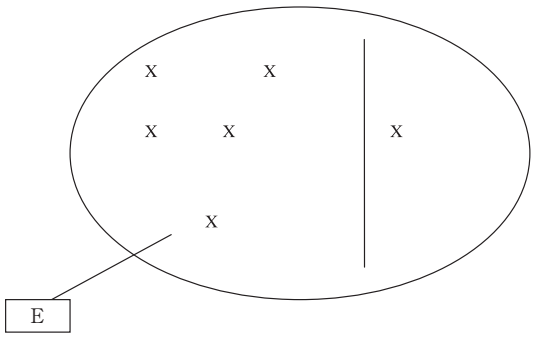
⒃ a．Salji *hanya* turun pada musim dingin *sahaja*.
雪 だけ 降る に 季節 冬 のみ
〈雪は冬にだけ降る〉
b．Salji turun pada musim dingin sahaja.〈雪は冬にだけ降る〉

上記の⒁ a 〜⒃ a で使用されている hanya は，〈 〉に訳してある日本語筆者訳よりも，次の訳の方が相応しいだろう。

⒁ a．会社に着いたのはアリ一人**しか**いない。
⒂ a．ライラはマジュヌン**しか**愛さない。
⒃ a．雪は冬に**しか**降らない。

hanya 日本語では，否定と呼応する陳述副詞「しか」に相当する。山田（1997）では，日本語の NPI「〜しかない」は，多対 1 型とする。山田は，多対 1 型を次の図でまとめた。

図 1 ：反転型（cf. 山田 1997，p.79）



E は，理論四角形[4]上で反対と矛盾の位置である。上記の山田が提唱した否定・肯定反転型は，想像上の要素，多数部分を否定すると一つだけあるいは限定数だけ肯定要素が得られるというタイプである。背景を否定することによって前景が浮かび上がってくるという仕組みである。

この山田式の多対１型は日本語の「～しかない」に当てはまる。同様に hanya も，多数部分を否定する中で，一つの肯定要素が浮かび上がる。それを，⑭の「多くある従業員の中では，アリ以外誰も来なかった」という意味の文で見ることができる。⑮では，「多くいる男性の中でライラはマジュヌン以外誰も愛さなかった」という意味になる。同様に⑯でも，「四季ある季節の中で冬以外に雪が降らなかった」という意味になる。このように，意味論的な観点から，hanya は多対１型の NPI として考えられる。

しかし，⑭ｂ～⑯ｂのように hanya を取り除くと，肯定の平叙文となる。それぞれの文に hanya を加えることによって，否定のニュアンスを漂わせることになる。

次に，hanya は否定文でも用いられるかを見るために，⑭～⑯を否定文にする。以下参照。

⑭’ **Bukan** *hanya* Ali seorang yang telah sampai ke pejabat.
〈会社に着いたのはアリ一人ではない〉

⑮’ Laila **tidak** *hanya* cinta Majnun.
〈ライラが愛しているのはマジュヌン一人ではない〉

⑯’ Salji **tidak** *hanya* turun pada musim salji.
〈雪が降るのは冬だけではない〉

上記の⑭’～⑯’では，肯定文の中での hanya が持つ意味と矛盾関係を示している。hanya が山田（1997）の多対１型として分類することができれば，それに加えて否定詞 tidak または bukan の挿入によって，もう一度反転することになるだろう。つまり，二重反転という現象が起こり，否定要素が浮かび上がることになる。

このように，hanya は，肯定文あるいは否定文の両方に用いられることができる。肯定文の中で hanya を用いる場合は，否定要素の中から肯定要素が得られ，多数部分否定する中の肯定を強調することができる。否定文の中で hanya を用いる場合は否定要素の中から得られた肯定要素をぼんやりとしたものにすることができる。以上の２点を見ると，hanya は出現する肯定文でも否定の意味を含んでいるため，hanya を認可する。山田（1997）の定義に基づくと，hanya は弱い NPI として扱うことができる。

3-2-3　機能語 sama sekali, jarang

次に検証する機能語は，sama sekali と jarang である。sama sekali は否定詞 tidak との共起が多く，langsung と同様，否定の意味を強調する機能を持っている。また，jarang は低頻度を表す際に用いる表現である。Zoraida（2002）では，jarang は否定詞として扱うことができないが，否定の意味を表す際に用いられる点において，否定を表す語の一つとしてみなしている。本節で，jarang と sama sekali の対極性を検証する。まずは，以下の例文を参照されたい。

⑰ａ．Perkara yang sama **tidak** mungkin berlaku *sama sekali*.
件 REL-PRO 同じ NEG 可能 起こる 全く
〈同じことは全く起こりえない〉

ｂ．Perkara yang sama **tidak** mungkin berlaku.
件 REL-PRO 同じ NEG 可能 起こる
〈同じことは起こりえない〉

＊ｃ．Perkara yang sama mungkin berlaku *sama sekali*.
件 REL-PRO 同じ 可能 起こる 全く
＊〈同じことは全く起こりえる〉

⑱ａ．Dia **tidak** kecil hati *sama sekali*.
彼 NEG 気にする 全く
〈彼は全く気にしない〉

ｂ．Dia **tidak** kecil hati.
彼 NEG 気にする
〈彼は気にしない〉

＊ｃ．Dia kecil hati *sama sekali*.
彼 気にする 全く
＊〈彼は全く気にする〉

⑲ａ．Mereka **tidak** bersetuju dengan pendapat itu *sama sekali*.
彼ら NEG 賛成する と 意見 その 全く
〈彼らはその意見に全く賛成しなかった〉

b．Mereka **tidak** bersetuju dengan pendapat itu.
彼ら NEG 賛成する と 意見 その
〈彼らはその意見に賛成しなかった〉
＊c．Mereka bersetuju dengan pendapat itu *sama sekali*.
彼ら 賛成する と 意見 その **全く**
＊〈彼らはその意見に全く賛成した〉

sama sekali は文末に来ることが一般的であり，否定の意味を完全にし，否定の意味を強固にする。⑰b～⑲bでは，sama sekali を省略すると，いずれも単に否定の平叙文となる。sama sekali は，「完全に」，「全く」という意味を表しているが，⑰c～⑲cのような肯定文では用いられない。しかし，次の⑳の例文は否定詞 tidak が含まれていない肯定文のように見えるが，menafikan という動詞は，「否定する」という意味で，同じ肯定文でも否定の意味を表すため sama sekali を認可する。または，menafikan の他，「反対する」「否定する」「否認する」などのような否定の意味を表す｛VP｝（例えば，menolak, menentang, menidakkan, など）に sama sekali が認可される。

⑳Dia menafikan kenyataan akhbar itu *sama sekali*.
彼 否定する 記事 新聞 その 全く
〈彼はその新聞記事を完全に否定した。〉

次に検証する jarang は頻度を表す機能語であり，低い頻度を表す際に用いられる表現である。式的な面では，機能語 hanya と同様，否定形式と呼応しなくてもいいが，否定の意味を含んでいる。語用論的な観点では，高頻度を否定していることが明らかであるため，否定の対極性を示している語の一つとして考えるべきである。以下の例文を参照。

㉑a．Ayah *jarang* ada di rumah.
父 めったに いる 家
〈父はめったに家にいない〉
b．Ayah *jarang* tiada di rumah.
父 めったに いない 家
＊〈父はめったに家にいなくはない〉
㉒a．Cikgu Husin *jarang* marah.
先生 フシン めったに 怒る
〈フシン先生はめったに怒らない〉
b．Cikgu Husin jarang tidak marah.
先生 フシン めったに NEG 怒る
＊〈フシン先生はめったに怒らなくはない〉

上掲の㉑と㉒のaとbは，マレー語ではいずれも考えられる文である。㉑aでは「家にいる頻度が低い」という意味を表すが，㉑bでは，「家にいない頻度が低い」意味を表すことになる。同様に，㉒aは「怒る頻度が低い」ということが「あまり怒らない」ことを表すのに，bでは「怒らない頻度が低い」ということで「かなり怒る」という意味を伝える。意味論的に，jarang は日本語の「めったに～ない」に相当するが，マレー語の場合は，肯定文で用いられる jarang の方が否定の意味を表す。また，否定文の中で用いられる jarang は，否定詞 tidak が否定する部分を更に否定することで，肯定を表すことになる。つまり，jarang は肯定文，またか否定文の両方に認可される弱い NPI である。

3-3 その他

3-3-1 数字１＋数量詞＋pun

山田（1997）の NPI 分類では，弱数量叙述の場合がある。それは，様々な種類の尺度の存在を想定し，目尺度上の最小を取り上げ，あるものがそれよりも少ない（小さい，短い，等）を強調するものである。マレー語では，その最小限を表す数字１と数量詞に kata penegas（強調詞）pun がある。pun は文章の主題と述部のどちらにも置くことができ，先行する語を強調する。例えば，次の㉓と㉔では，肯定文の中で用いられる pun の例である。

㉓Encik Abu **pun** datang, *tentu sekali*
アブ氏 も（さえ） 来る きっと
pekerja-pekerjanya akan datang juga.
従業員-PRO ［未来］ 来る も
〈アブ氏も来たから，彼の従業員もきっとくる〉
㉔Kalau Encik Abu datang, pekerja-pekerjanya **pun**
もし アブ氏 来る 従業員-PRO も
akan datang juga.

［未来］ 来る も
〈もしアブ氏が来れば，彼の従業員も来る〉

pun は主題と述部に現れることができ，先行する語を強調する。強調詞として pun は，肯定文または否定文の両方に現れることができる。しかし，以下のような最小限の数量詞に先行する pun の使用は，否定文でしか見られない。以下の例を参照されたい。

(25) a．Kuli menggergaji kayu **tidak** datang
職人 (のこぎりで)切る 樹 NEG 来る
seorang **pun**.
一人 も
〈樹を切る職人は一人も来なかった.〉
＊b．Kuli menggergaji kayu datang seorang pun.
職人 (のこぎりで)切る 樹 来る 一人 も
＊〈樹を切る職人は一人も来た〉
＊c．Kuli menggergaji kayu datang seorang.
＊〈樹を切る職人が一人来た〉

(26) a．Dia **tidak** tidur *seminit* **pun** sejak semalam.
彼 NEG 寝る 一分 も から 夕べ
〈彼は夕べから一分も寝ていない〉
＊b．Dia tidur *seminit* **pun** sejak semalam.
＊〈彼は夕べから一分も寝た〉
＊c．Dia tidur seminit sejak semalam.
＊〈彼は夕べから一分寝た〉

(27) a．Ali **tidak** pandai bercakap Bahasa Jepun
アリ NEG 上手 話す 日本語
sepatah **pun**.
一語 も
〈アリは，日本語を一語も上手に話さない〉
＊b．Ali pandai bercakap Bahasa Jepun *sepatah* **pun**.
＊〈アリは，日本語を一語も上手に話す〉
c．Ali pandai bercakap Bahasa Jepun sepatah.
〈アリは，日本語を一語上手に話す〉

(28) a．*Sebiji* kuih **pun** **tidak** terjual hari itu.
一個 菓子 も NEG 売れる 日 その
〈その日，菓子は一個も売れなかった〉
＊b．*Sebiji* kuih **pun** terjual hari itu.
一個 菓子 も 売れる 日 その
＊〈その日，菓子は一個も売れた〉
c．Sebiji kuih terjual hari itu.
〈その日，菓子が一個売れた〉

(29) a．**Tidak** ada *sebuah* rumah **pun** yang selamat
NEG ある 一戸 家 も 安全な
daripada ribut taufan itu.
から 台風 その
〈その台風に安全な家は一戸もなかった〉
＊b．Ada *sebuah* **pun** rumah yang terselamat daripada ribut taufan itu.
＊〈その台風に安全な家は一戸もあった〉
c．Ada sebuah rumah yang terselamat daripada ribut taufan itu.
〈その台風に安全な家は一戸あった〉

上記の(25) a ～(29) a の例文を見ると，最小限の数量詞に後続する pun の seorang pun（一人も），seminit pun（一分も），sepatah pun（一言も），sebiji pun（一個も），sebuah pun（一戸も）は，否定文の中で用いられている。(25) a ～(29) a の文をそのまま肯定に変えてみると，(25) b ～(29) b のように，統語的，意味的に文として成立しない。更に，(25) c ～(29) c は，肯定文の中の強調詞 pun が省略された文である。(25)は，語順的に“*seorang* kuli menggergaji kayu datang”「樹を切る職人は一人来た」となると，文が成立するが，数量詞 seorang が文末に現れるため，文として成立しない。同様な考えは(26)に適用できる。但し，sejak（から）という前置詞を取ると，“dia tidur seminit semalam”「彼は夕べ一分寝た」という意味を表し，文としては成立する。一方，(27)と(28)は，pun が省略された肯定文では，平叙文となり得る。一般的に pun は数量詞に後続しているが，(28)と(29)のように名詞に後続することもある。(28)と(29)のような sebiji（一つ，一個のような小さいものに使用）と sebuah（一戸，一台のようなスケールの大きいものに使用）は，様々な名詞に当てはめることができるため，pun は名詞の後に来ることも許される。seorang, seminit, sepatah はそれぞれ決まった人間，時間，言葉の数量詞を表すために用いられるため，

pun は数量詞の後にすぐ続かなければならないのである。

上掲の例文で見られるように，最小限の数量詞と pun は，否定文でのみ用いられる。したがって，最小限の数量詞と pun は NPI に該当する。

3-3-2 最小限の表現＋pun

本質的には 4-3-1 の最小限の数量詞と pun の形式と同じく考えることができるが，少量を表す数量 sedikit（少ない）と pun を共に用いると否定の意味を表す。山田（1997）は，数字「1」を否定すると必ずしも NPI になるとは限らない[5]と指摘しているが，マレー語の場合は数字「1」または最小限の表現を NPI として考えるときは，強調語の pun に伴わなければならないという条件が必要となってくる。⑳ a ～ d と㉑ a ～ d を参照されたい。

⑳ a．Dia **tidak** mengalihkan *sedikit* **pun** matanya.
彼 NEG 移す 少ない-（彼の）目
〈彼は少しも目をそらさなかった〉
＊ b．Dia mengalihkan *sedikit* **pun** matanya.
彼 移す 少ない も（彼の）目
＊〈彼は少しも目をそらした〉
＊ c．Dia **tidak** mengalihkan *sedikit* matanya.
彼はNEG 移す 少し（彼の）目
＊〈彼は少し目をそらさなかった〉
d．Dia mengalihkan *sedikit* matanya.
〈彼は少し目をそらした〉

㉑ a．Mereka **tidak** berganjak *sedikit* **pun** dari tempat masing-masing.
彼ら NEG 動く 少ない から 場所 各々
〈彼らは自分の場所から少しも動かなかった〉
＊ b．Mereka berganjak *sedikit* **pun** dari tempat masing-masing.
彼ら 動く 少ない も から 場所 各々
＊〈彼らは自分の場所から少しも動いた〉
＊ c．Mereka **tidak** berganjak *sedikit* dari tempat masing-masing.
彼ら NEG 動く 少ない から 場所 各々
＊〈彼らは自分の場所から少し動かなかった〉
d．Mereka berganjak *sedikit* dari tempat masing-masing.
彼ら 動く 少ない から 場所 各々
〈彼らは自分の場所から少し動いた〉

上記の⑳と㉑の例文 d を見ると，sedikit（少ない）は肯定文の中でも許容されるが，⑳と㉑の b と d の例文は，いずれも文として成立しない。sedikit は単独に肯定文と否定文両方に用いられることができるが，上掲の⑳と㉑の c では，否定文であるのにも関わらず，文が成立しない。最小限の表す数量 sedikit は pun と一緒に用いられる場合は，⑳ a と㉑ a のように否定文に現れ，否定の意味を強固にすることになる。したがって，最小限の数量と pun は，上記の数字「1」の数量詞と pun 同様，否定文にのみ用いられるため，NPI に該当する。

3-3-3 疑問代名詞＋pun

山田（1997）は，日本語には疑問代名詞型の「誰」「何」「どれ」を使って「だれも」「なにも」「どれも」のように係り助詞をつける形と，「なんの」「どんな」「そんな」の連体修飾語の形の NPI があると述べている。一方，マレー語にも疑問代名詞型の NPI はあるが，マレー語の場合は疑問代名詞を重複[6]することによって NPI となるが，全ての疑問代名詞には適用しない。apa は penggandaan penuh（屈折しない語基にだけ起こり得て，同じ語基を繰り返されること）を経て apa-apa になる。siapa は penggandaan separa（語基の半分だけ繰り返すこと）を経て，sesiapa になる。apa-apa と sesiapa に pun を加わると，文の否定の意味を強調することができる。㉜と㉝ a ～ b はその典型的な否定文である。

㉜ a．Mereka **tidak** makan *apa-apa* **pun** sejak pagi tadi.
彼ら NEG 食べる 何も から 今朝
〈彼らは朝から何も食べていない.〉

b．Mereka **tidak** makan *apa-apa* sejak pagi tadi.
彼ら　NEG 食べる　何も　から　今朝
〈彼は朝から何も食べていない.〉
＊c．Mereka makan *apa-apa* sejak pagi tadi.
彼ら　食べる　何も　から　今朝
＊〈彼らは朝から何も食べた〉

(33) a．Dia **tidak** berkata *apa-apa* **pun**.
彼 NEG　言う　何も
〈彼は何も言わなかった〉
b．Dia **tidak** berkata *apa-apa*.
彼 NEG　言う　何も
〈彼は何も言わなかった〉
＊c．Dia berkata *apa-apa*.
彼　言う　何も
＊〈彼は何も言った〉

(32) b．(33) b では，強調語 pun を省略しても，a と同意である。但し，pun を加えることによって否定の意味を強固にすることができる。しかし，(32) c と(33) c のような文は不可能で，apa-apa が用いられなくなる。したがって，apa-apa は単独でも否定文で用いられることができるという点で，十分に NPI として判断できる。同様に sesiapa を以下の例文を通して検証してみよう。

(34) a．**Tidak ada** *sesiapa* **pun** berani mendekati rumah usang itu.
NEG　いる　誰も　も　勇気　近づく　家　古い　その
〈誰もその古い家に近づく勇気のあるものはいなかった〉
b．**Tidak** ada *sesiapa* berani mendekati rumah usang itu.
NEG　いる　誰も　勇気　近づく　家　古い　その
＊〈誰もその古い家に近づく勇気のあるものはいなかった〉
＊c．Ada *sesiapa* berani mendekati rumah usang itu.
いる　誰も　勇気　近づく　家　古い　その
＊〈誰もその古い家に近づく勇気のあるものはいた〉

(35) a．*Sesiapa* **pun tidak** dibenarkan keluar dari tempat itu.
誰も　NEG　許可される　出る　から　場所　その
〈誰もその場所から出ることが許可されない〉
b．*Sesiapa* **tidak** dibenarkan keluar dari tempat itu.
誰も　NEG　許可される　出る　から　場所　その
〈誰もその場所から出ることが許可されない〉
＊c．Sesiapa dibenarkan keluar dari tempat itu.
誰も　許可される　出る　から　場所　その
＊〈誰もその場所から出ることが許可される〉

(34)，(35)の a と b は，apa-apa と同様に pun を付加しなくても「誰も」という意味を表し，否定文の中で認められる。apa-apa と同じく，sesiapa も否定文にのみ用いられるため，NPI として判断できる。しかし，(35) b に関しては，疑問詞が文頭に現れる場合は，pun に伴われなければならなく，このような文はほとんど口語体でしかみられない。(34) b のように文中に現れる場合は，pun を省略しても，「誰も～ない」という意味を表明することができる。また，(34) c と(35) c のような肯定文の中では，sesiapa を用いることができない。本来，apa と siapa は疑問代名詞であり，apa-apa, sesiapa は疑問代名詞から形成された語であるため，(34) c と(35) c は非文法的ではあるが，疑問符を付けて，疑問文としては成り立つ。

一方，sesiapa と apa-apa は次の(36)と(37)のような可能を表す肯定文での使用もあるが，apa-apa と sesiapa は，もはや NPI でなくなる。

(36) *Sesiapa* **pun** boleh mencuba.
誰も　できる　やってみる
〈誰でもやっても見ることできる〉

(37) Makan *apa-apa* **pun** boleh.
食べる　何も　できる
〈なんでも食べていい〉

上記の㊱と㊲の場合は，McGloin（1972）が指摘したように，「不定＋でも」の形式となり，肯定対極表現となる。日本語では，「不定」に「も」または「でも」の付加で肯定または否定の対極を区別できるが，マレー語の場合は形式的な面では両方とも pun に伴われているため，形態的な違いでは区別しにくい。その場合，マレー語ではアクセントで区別する。apa-apa pun と sesiapa pun は，肯定文と比べ，否定文で用いられる場合の方が高いアクセントが使われる。

3-3-4 paling（もっとも）＋否定詞 tidak, kurang

マレー語は，日本語と同様英語の文法的最上級（loudest, prettiest, wildest など）のような表現はないが，最も高い程度を表す際に paling を用いる。paling も強調語の一つであり，後続する語を最も高い程度に持っていく機能を有する。例えば，㊳では，paling cantik は「最もきれい」という意味を表す。

㊳Rumah itu *paling* cantik.
家 その 最も きれい
〈その家は最もきれいだった〉

一方，paling は否定詞 tidak と kurang と共起し，その最も高い程度を表すことと矛盾して，最も低い，または最低限の意味を表すことになる。㊴〜㊶を参照。

㊴*Paling* **tidak** 20 orang.
最高 NEG 人
〈最低でも20人〉

㊵ a．*Paling* **kurang** 5 orang telah berjaya ke
最高 NEG 人 過去 合格
menara gading.
大学へ
〈少なくとも 5 人は大学に合格した〉
＊ b．Paling 5 orang telah berjaya ke menara gading.
最高 人 過去 合格 大学へ
〈最高 5 人は大学に合格した〉

㊶ a．*Paling* **tidak** mereka mesti singgah ke
最高 NEG 彼ら 必ず 寄る
rumah saya.
家へ 私
〈少なくとも彼らは私の家に寄らなければならない〉
＊ b．*Paling* mereka mesti singgah ke rumah saya.
最高 彼ら 必ず 寄る 家へ 私
＊〈最高彼らは私の家に寄らなければならない〉

結果的に㊴〜㊶は，最低の数，最低にできる行為を表す点で，「最小限＋pun」型と同様である。本来，paling は形容詞に後続する形式で用いられ，上記のように名詞または動詞述部に後続する場合は，㊴〜㊶の b のように肯定文では用いられない。したがって，上掲のような文では，paling は否定文でのみ用いられるため，NPI として扱うことができる。

3-3-5 否定が明示的に現れない表現（mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa）

マレー語では，否定詞 tidak, bukan 以外に，否定の意味を表すことのできる表現がいくつかある。Sudaryono（1993）の研究では，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は文の中に現れ，否定の意味を表すことのできる表現として挙げている。マレー語の規範文法書では，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は否定詞として列挙されていないが，マレー語国語辞典の Kamus Dewan を調べた結果，いずれも否定の意味を含有していることが明らかである。但し，文語よりも口語に用いられる場合が多い。以下の例文を参照されたい。

㊷Dahulu orang memikirkan penyakit kusta ini
昔 人 考える ハンセン病 この
mustahil dapat diubati.
NPI 可能 治療される
〈昔の人はハンセン病が絶対に治らない病気だと思っている〉

(43)*Mana boleh* perkara itu didiamkan.
NPI 件 あの 黙っている
〈あの件については，黙っておられない〉

(44)Masakan saya *mana* sama dengan chef terkenal itu.
料理 私 NPI 同じ と シェフ 有名 その
〈まさか私の料理はあの有名なシェフと同じではないだろう〉

(45)Kalau tidak bercuti *manakan* sempat saya buat kerja ini.
もし NEG 休み NPI 間に合う 私 する 仕事 この
〈休まなければこの仕事は間に合わないだろう〉

(46)*Masakan* boleh berpuas hati dengan menjenguk dari tingkap saja.
NPI 可能 満足する で 覗く から 窓 だけ
〈窓から覗くだけで満足するはずがない〉

以上，(42)～(46)は形式的な面では，肯定形式を取っているが，意味的な面では，いずれも否定文である。次に，(42)～(46)の例文より，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa を省略してみると，次の肯定文が考えられる。

(47)Dahulu orang memikirkan penyakit kusta ini dapat diubati.
〈昔はハンセン病が治療できると思われていた〉

(48)Perkara itu didiamkan.
〈あの件については黙っている〉

(49)Masakan saya sama dengan chef terkenal itu.
〈私の料理はあの有名なシェフと同じだ〉

(50)Kalau tidak bercuti sempat saya buat kerja ini.
〈休まなければこの仕事をすることができる〉

(51)Boleh berpuas hati dengan menjenguk dari tingkap saja.
〈窓から見ても満足することができる〉

(47)～(51)を見ると，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa を取ると，いずれも肯定文になり得るということより，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は文を否定する機能を持っていることが明らかである。但し，この場合は，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は，マレー語で最もよく使われる否定詞 tidak と bukan とは全く同じように機能できるかどうかが問題になってくる。では，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は否定詞 tidak と bukan と代替できるかどうかを検証してみる。

(52)Dahulu orang memikirkan penyakit kusta ini { *mustahil* / *tidak* / ∗*bukan* } dapat diubati.

(53) { *Mana boleh* / ∗*tidak* / ∗*bukan* } perkara itu didiamkan.

(54)Masakan saya { *mana* / *tidak* / ∗*bukan* } sama dengan chef terkenal itu.

(55)Kalau tidak bercuti { *manakan* / *tidak* / ∗*bukan* } sempat saya buat kerja ini.

(56) { *Masakan* / *Tidak* / ∗*Bukan* } boleh berpuas hati dengan menjenguk dari tingkap saja

(52)～(56)を見ると，(53)除いて，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は，否定詞 tidak と代替することができる。tidak はネクサスあるいは述部を単純に否定する。(52)では，“mustahil dapat diubati”は「治療が絶対に可能ではない」ということを意味し，可能性が絶対ないとい

う強意の否定を表すが，tidak dapat diubati は「治療できない」という単純否定になる。⑸では，“mana boleh perkara itu didiamkan”は mana boleh という表現は「可能ではない」ということを意味し，可能を否定する表現になる。また，⑸は，mana boleh は mana と boleh が同時に共起しているため，tidak と bukan 単独では言い換えることができないが，tidak を動詞の didiamkan の前に置けば，“perkara itu tidak didiamkan”「その件について黙っていない」という単純な否定文は成立する。⑸では，“masakan saya mana sama”は，“masakan saya tidak sama”という文に換えることができるが，mana を用いる場合は，「まさか私の料理と同じではないだろう」という仮定法的な意味が含まれているが，tidak を用いる場合は，「私の料理と同じではない」という単純な否定を表す。⑸の文では，kalau と manakan 両方，文の中で共起し，仮定法的な表現になる。“kalau tidak bercuti manakan sempat”を「もし休まなければ間に合わないだろう」という意味をするが，tidak を用いる場合は，「休まなければ間に合わない」という意味になる。⑸では，masakan と否定詞 tidak と bukan のいずれも用いることができるが，それぞれ意味的に異なっている。masakan を用いる場合は，推量の意味が含まれており，“masakan boleh berpuas hati”は「満足できるはずがない」という意味になる。これ対して，tidak を用いる場合は，単純な否定文となり「満足できない」という意味になる。

以上のように，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は，tidak と bukan のように単純に否定ではなく，いわゆるムード的な表現の中での否定機能を持っている機能語であることが分かる。したがって，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は文中に現れ，否定の意味を表す NPI として判断できる。

4．おわりに

以上のように，意味論的，機能的な観点から考えて，否定詞を中心にマレー語における機能語を調べた結果，対極性を示す表現を次のように挙げることができる。

A）機能語：langsung, hanya, sama sekali, jarang
B）数字（1）＋数量詞＋pun
C）最小限＋pun
D）重複型の疑問代名詞（apa, siapa）＋pun
E）paling（上級）＋否定詞（tidak, kurang）
F）否定が明示的に現れない表現（mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa）

その結果，次のようなことが言える。日本語では，工藤ら（2000）が挙げた副詞だけを見ると，否定と呼応する表現が数多くあり，対極性を示す語も多い。それに比べて，マレー語の機能語の中では，否定文の中で使用され，否定の対極性を示す語があり，それは上記のA（langsung, hanya, sama sekali, jarang）とF（mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa）が特徴的である。langsung と sama sekali は，完全否定を形成し，否定文でのみ使用されている。jarang と hanya は文を部分的に否定し，不完全否定を形成する。langsung と sama sekali 同様，否定文に用いられる jarang と hanya は，否定の意味を強固にするが，肯定文にも出現するため，NPI としては弱いものである。

次のB，C，Dは，強調語 pun を加えることが条件となっているが，Dの場合は，pun の出現なしでもNPIと認可できる場合がある。また，「最小数⑴＋数量詞＋pun」は日本語と同形式である。McGloin（1972），工藤ら（2000）が取り上げているように，「数字⑵」を使う表現，例えば「二度と～ない」のような表現は，マレー語には存在しない。マレー語では，否定文だけで使用されている「最小数⑴＋数量詞＋pun」は pun なしでは NPI として認可できない。最小限の数量 sedikit（少ない）に関しても，「最小数⑴＋数量詞＋pun」の形式と同様，pun なしでは NPI として認可できない。

重複型はマレー語の一つの特徴とも言えるが，一般的に表現の意味を拡大するために用いられる。apa-apa pun（何も），sesiapa pun（誰も）は結局「モノ」の全てを拒否するか全てを許可するかということを表す。しかし，否定文の中で用いられる apa-apa と sesiapa は，pun との共起がなくても，単独でも否定の対極性を示すことができる。

次に，強調詞 paling と否定詞 tidak, kurang との

共起は，工藤ら（2000）が挙げる「半年も，五メートルも」などのような形式と同様，完全に否定するのではなく，部分的に否定し，その少ないことを強調する表現である。但し，マレー語では日本語ほど多くの例が見られない。本稿ではもっとも際立っている paling を検証した。paling は形容詞に後続するが，名詞述部または動詞述部に後続する場合は，否定詞と共起することしか許されないということより，NPI として判断できる。

また，否定の意味を含む機能語 mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa を検証した結果，「強意，可能，仮定，推量」の否定を表すことがわかった。mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は，否定詞としては明示的ではないが，否定の意味が内包していることを確認することができた。したがって，mustahil, mana boleh, mana, manakan, masakan, masa は NPI に該当するものとして扱うことができる。

以上のように，今回取り上げたマレー語の否定対極は，McGloin（1972），Kato（1985），山田（1997）などの日本語の考え方を応用しマレー語の NPI を考察した。マレー語の NPI の多くは，機能語として使用されていることが明らかになった。また，その中でも特に強調詞としての用法が多い。NPI とした「最小数「１」＋数量詞＋pun」「最小限＋pun」という形式は日本語の「数＋数量詞＋も」「最小限＋も」と同形式であり，機能的な面でも同等である。また，意味的には同等と考えられる強調詞の hanya と jarang と日本語の「～しかない」と「めったに～ない」は，形式的な面では異なっている。マレー語の場合は肯定文での使用で hanya と jarang が NPI となるが，否定文での使用は特殊なものになり，一般的に用いられない。また，日本語の「しか」が肯定文に現れることもあるが，これも特殊なものであり，語用論的・談話的な面では否定の意味を表している。

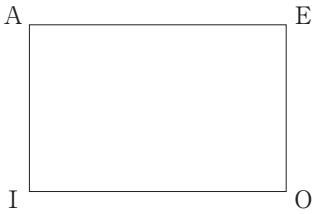
注記

⑴同語族に所属している２つの言語には細かい点では異なる部分もあるが，大きな点では共通しているため研究に支障を与えないと考えて，本稿の主要参考文献とする。Sudaryono（1993）では，インドネシアごにおける否定を意味論的，統語的に論じた研究である。

⑵例文⑴～⑻は，Kato（1985）より引用したものである。

⑶Nik Safiah, et al.（1993）では，厳密には前句詞が節の前に現れ，文の意味を強調すると述べている。

⑷山田（1997）では，理論四角形では，反対と矛盾の関係を示す。その関係を次のように説明している。A＝太郎は大きい，E＝太郎は小さい，I＝太郎は小さくない，O＝太郎は大きくないという。



「太郎は大きい」と「太郎は小さい」は反対対立

「太郎は大きい」と「太郎は大きくない」は矛盾対立

「太郎は大きい」は「太郎は小さくない」を含意

「太郎は小さい」は「タオルは大きくない」を含意

⑸山田（1997）は，数字１を否定しても必ずしも NPI とならないという。「一度ならず警告した」はその例である。ここでは，一回以上という意味になる。

⑹語重複：マレー語の語形成の中では，語基が重複される現象がある。重複型は３種類あって，penggandaan penuh（屈折しない語基を繰り返すこと），penggandaan separa（語基の半分だけ繰り返すこと），penggandaan berentak（語基の音韻リズムに合わせて繰り返すこと）の場合がある。apa（何）は語基全部繰り返しということで apa-apa になる。siapa（誰）は語基の一部を繰り返し，sesiapa になる。（Nik Safiah, et al. 1993, p. 226）

参考文献

Asmah Haji Omar（1992）, *Bahasa dan Alam Pemikiran Melayu*, Dewan Bahasa & Pustaka.

_____（1980）, *Nahu Melayu Mutakhir*, Dewan Bahasa & Pustaka.

Arbak Othman（1989）, *Nahu Bahasa Melayu*, Fajar Bakti Sdn. Bhd..

_____（1999）, *Kamus Bahasa Melayu*, Fajar Bakti Sdn. Bhd..

岩倉国浩（1978），『日英語の否定の研究』，研究社。

太田　朗（1980），『否定の意味』，大修館。

Kato, Y.（1985），Negative Sentences in Japanese, *Sophia Linguistica XIX*, Sophia University.

工藤真由美（2000），「否定の表現」，金水敏・工藤真由美・沼田善子著『時・否定と取り立て』，岩波書店，pp.95-pp.150.

工藤真由美（1998），「否定と呼応する副詞をめぐって－実態調査から」，『大阪大学文学部紀要』39，69-106.

_____（1999），「現代日本語の文法的否定形式と語彙的否定形式」，『現代日本語研究（大阪大学日本語学講座）』6，1-23.

佐久間鼎（1934），「否定表現の意義」，『日本語の言語理論的研究』，厚生閣。

Sudaryono（1993），*Negasi dalam Bahasa Indonesia: suatu tinjauan sintaktik dan semantik*, Pusat Pembinaan dan Pengembangan Bahasa.

湊吉　正（1971），「日本語の否定表現について」，『表現研究』13.

Zoraida Mustafa（2002），『日本語とマレー語における否定表現の対照比較研究―マレーシア文学作品とその日本語翻訳を中心に―』，広島大学修士論文.

Downing, L.（2000）, *Negation, Text World, and Discourse: The Pragmatics of Fiction*, Alex Publishing Corporation.

Horn, L.（2001）, *A Natural History of Negation*, CSLI Publication.

Nik Safiah Karim（1995）, *Malay Grammar for Academics and Professionals*, Dewan Bahasa & Pustaka.

Nik Safiah Karim, et al.（1993）, *Tatabahasa Dewan*, Dewan Bahasa & Pustaka（DBP）Publishing.

Noresah Baharom（ed）（2002）, *Kamus Dewan*, Dewan Bahasa & Pustaka.

Mc Gloin, N.H.（1972）, *Some Aspects of Negation in Japanese*, Ann Arbor, Michigan, University Microfilm［The University of Michigan, Ph. D., Language, Literature and Linguistics］.

_____（1986）, *Negation in Japanese*, Boreal Scholarly Publisher & Distributor.

水谷静夫（1974），「国語での否定表現の意味」，『計量国語学』68。

Ladusaw, W.（1980）, *Polarity Sensitivity as Inherent Scope Relations*, New York & London, Garland Publishing.

Liaw Yock Fang & Abdullah Hassan,（1994）, *Nahu Melayu Moden*, Fajar Bakti Sdn. Bhd..

山田小枝（1997），『否定対極表現』，多賀出版。

吉村あき子（1999），『否定極性現象』，英宝社。

本稿で使用している術語の略

NPI: negative polarity item
NEG: negative
［akan］: 未来を表す補助動詞
PRO: pronoun
REL-PRO: relative pronoun

Abstract

Negative Polarity Items in Malay

Zoraida MUSTAFA
Graduate School for International Development and Cooperation
Hiroshima University 1-5-1, Kagamiyama, Higashi-Hiroshima city, 739-8529, Japan
e-mail: amira97@hiroshima-u.ac.jp

The objective of this paper is to clarify characteristics of negative polarity items (NPIs) in the Malay language, by using the manner of Japanese NPIs for judgement. For the purpose of identifying words and phrases showing polarity in sentences, I have made use of the works on 'words category' by Nik Safiah (1995). NPI's presence and dominance in the Malay language are examined by applying Yamada's (1997) theories on the presence of NPIs in the various languages including Japanese. In the process of examination, I have discovered that there are some semantic similarities of these NPI's words and phrases patterns in Japanese and Malay languages. However the use of these NPIs is applied differently in sentence in each language structure. My findings in this study confirmed the characteristics of NPIs in the Malay language in the various areas such as 'langsung', 'hanya', 'sama sekali', and 'jarang' as functional words; a single numerical emphasis with 'pun'; plummeting words with 'pun'; duplication of interrogative words such as 'apa' and 'siapa'; strengthening word 'paling' with negative words 'tidak' and 'kurang'; and words implying negative such as 'mustahil' and 'mana boleh'. Why and how they exist, including their influence and dominance are also illustrated in this analysis.